

平成 30年度 山手地域包括支援センター自己評価報告書

自己評価実施日	平成30年12月19日
行政評価実施日	平成31年1月16日
運営協議会開催日	平成31年2月6日

包括情報	
法人名	社会福祉法人 山手の里
責任者	北川 宜尚(センター長)
所在地	苫小牧市山手町1丁目1番2号 ハリスAP-A102
連絡先	0144-71-5565

地域情報	
担当地区	有珠の沢町 啓北町 桜木町 字高丘(55・56・60) 豊川町 花園町 北光町 松風町 山手町
高齢者人口	7,863 人(H30.10.1現在)
高齢化率	35.4 %(H30.10.1現在)
地域特性	山手地域包括支援センターの担当圏域は市内でも1.2を争う高齢者人口の多い地域である。公営住宅の居住割合が市内で一番低く、持家も多い。王子製紙退職者の家が多く、生活水準に大きく反映されている。その反面、公営住宅入居者は生活保護世帯や年金受給額の低い世帯が多い。入院設備のある大きな病院へのアクセスも良く、個人病院やクリニックの開業医も多く、医療機関への受診はしやすい環境にある。

職員体制	
○職種	○雇用形態
保健師または看護師 1 人	常勤職員 6人
主任介護支援専門員 1 人	非常勤職員 0人
社会福祉士 2 人	
その他 2 人	○常勤職員の平均勤務年数
	平均 3.3年

総合評価	
自己評価	行政評価
前年度末、今年度上半旬に退職者があったが、短期間の不在期間で、新職員が入職する事ができた。今後も安定した職員体制が保てるよう、包括支援センターの役割や機能についての理解を共有できる体制づくりを行っていきたい。	住民をはじめ医療機関や介護事業所・ケアマネ・生活支援コーディネーターの協力を得ながら、地域課題に取り組まれている。今後も包括職員全体が3職種の専門性や役割を理解したうえ、チームとして包括全体で地域づくりを進めていくことを期待する。

評価項目		
1 運営体制		
(1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている		
(2)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している		
(3)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有をしている		
(4)個人情報含む記録物を適切に保管している		
(5)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している		
(6)苦情の内容と対処についてセンター内共有し再発防止に努めている		
(7)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている		
(8)介護予防支援業務における利用サービス事業所に隔りがない(占有率50%)未満		
(9)相談・面談室のプライバシーが確保されている		
(10)休日・夜間の連絡体制が整備されている		
	自己評価	行政評価
特記事項	各職員において事業全体の理解や、それぞれの役割の理解に個別差がある。研修への参加等、自己研鑽に関わる機会への参加を積極的に続けていきたい。面談スペースについては、プライバシー確保に向け、引き続き配置など改善しなければならない。	毎朝のミーティングと月1回の職員会議で、職員同士のケースの共有は行えている。今後は各職員において包括職員としての役割や各事業目的を共通理解したうえ、各職員が協力しあい業務運営できることを期待する。なお面談スペースに関しては、今後も改善策を検討していくこと。
2 共通的支援基盤構築		
(1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている		
(2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている		
(3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている		
	自己評価	行政評価
特記事項	ホームページに関しては更新等が行われていない為、広報に向けた改善が必要。今年度は、地域の「おせっかい隊」創出に向けた動きに関わる事が出来、「おせっかい隊」の活動開始の一助となる事が出来た。	地域ケア会議から地域のニーズを把握し、「おせっかい隊」として独自の地域活動に展開できたことを評価する。なお、包括のPR活動は社会資源やニーズ把握につながるため、早急な対応を期待する。

評価項目

3 総合相談支援・権利擁護

- (1)相談には速やかに対応し、的確な状況把握及び信頼関係の構築に努めている
- (2)的確に状況を把握し緊急性の有無を判断し、緊急性が高い場合には迅速に対応している。
- (3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている
- (4)困難事例は速やかに3職種の専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している
- (5)主担当以外においてもケースの概要を把握している
- (6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している
- (7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている
- (8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている
- (9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている
- (10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している

	自己評価	行政評価
特記事項	包括内での情報共有、相談の場を設けてはいるが、困難事例、権利擁護相談等においては依然として対応する職員が特定化している。引き続き包括全体で対応できる体制を整えていく。	高齢者虐待に関し、ツールを活用し客観的に判断できるよう取り組んでいる。今後は職員間で協力しあいながら、3職種での専門性や役割を理解したうえで、チームとして地域包括支援センター全体で対応することを期待する。

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援

- (1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている
- (2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている
- (3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等行っている
- (4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている
- (5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している

	自己評価	行政評価
特記事項	日常的な業務過多もあり、昨年度同様地域ケア会議(個別・圏域)の定期的な開催に至るまで行えていない状況である。	医療機関や介護事業所等と連携できるよう日々意識し取り組まれている。今後も地域ケア会議を積み重ね地域課題発掘につなげてほしい。

評価項目		
5 介護予防マネジメント・介護予防支援		
(1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている		
(2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている		
(3)非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている		
特記事項	自己評価	行政評価
	適宜各職員行う事が出来ている。	介護予防の支援に関し、介護保険外サービスも活用し改善を目指した支援を行っていることに評価する。
6 認知症施策の推進		
(1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している		
(2)サポーター養成講座や搜索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている		
(3)ネットワーク会議や地域ケア会議等を認知症の方を支える仕組みづくりに活用している		
(4)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている		
特記事項	自己評価	事業評価
	今年度については、チームとしての稼働は適宜情報共有を行いながら、対応が出来ている。	認知症初期集中支援チームを積極的に活用し、支援策を検討する姿勢は評価できる。今年度包括職員に新たにキャラバン・メイトが増えたため、サポーター養成講座や搜索模擬訓練等更なる住民への正しい知識の普及を図ることを期待する。
7 在宅医療・介護連携推進		
(1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している		
(2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている		
(3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	医療機関及び介護事業所等と効果的な連携が出来ていると評価している。今後は医療介護連携センターとどう効果的に連携を行っていくのが適切なかが課題である。	日頃より医療機関や介護関係機関等と連携しており、地域ケア会議参加の協力を得ている。今後も各関係機関との連携を行い、より良い支援につなげることを期待する。

評価項目		
8 生活支援体制整備		
(1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている		
(2)生活支援コーディネーターと連携した地域づくりに努めている		
特記事項	自己評価	行政評価
	概ね、適切にコーディネーターと連携をしながら地域づくりに努めているが、今後は2層の生活支援コーディネーターとの連携についても課題となる。	地域ケア圏域会議をきっかけに、生活支援コーディネーターと連携し、「おせっかい隊」を結成できたことを評価する。現在新たに多世代交流を視野に入れた取り組みを検討しており、引き続き生活支援コーディネーターと連携した地域づくりを期待する。
9 一般介護予防事業		
(1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している		
(2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている		
(3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している		
(4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている		
(5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している		
(6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している		
特記事項	自己評価	行政評価
	昨年度同様、地域の関係機関等からの講座依頼等について、出来る限り受ける様に努めている。	看護師が定期的に教室に参加し、スタッフと情報共有し、欠席者等へのフォローを実施している。現在予防教室がない地区のふれあいサロンへの出張教室も展開しており、今後も圏域全体の介護予防の普及啓発を期待する。

○評価基準

- ◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた
- 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している
- △ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった
- × 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

1 事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容
<p>「地域の連携」「多職種連携」の強化を意識し、地域包括ケアシステム構築に向けた活動を行う事を重点目標とし、活動を行った。</p>
2 今年度事業の達成状況及び成果
<p>(総合相談・権利擁護)各職員が関係機関との連携を意識しながら、地域ネットワーク構築に引き続き取り組んでいる。権利擁護についても、行政をはじめとする各機関とも連携しながら、その防止に努めた。(包括的・継続的ケアマネジメント)圏域のケアマネジャー(主任含む)の支援及び協働が円滑に行えるよう、市及び圏域のケアマネジャー連絡会を有効的に活用した。(認知症施策・生活支援体制基盤整備)認知症初期集中支援チームの活動については、速やかに適宜行っている。地域ケア会議の中で出てきた意見から、地域の「おせっかい隊」活動の創出に関わることができ、体制基盤の整備の一助となることができた。</p>
3 達成できた又は達成できなかった原因
<p>昨年末に開催した地域ケア会議から発せられた意見が(おせっかい隊の創出)今年度、具体的な活動とまでなったことについて、数年間の地道な地域活動がようやく一つだけ実を結んだと感じている。</p>
4 課題及び今後の取組み
<p>今年度は地域活動の創出と言う形で、地域ケア会議開催の有用性を実感できた一方で、業務過多により定期的な地域ケア会議開催の機会を得にくいことがやはり課題である。通常の相談業務を行いながら、どのように包括内でも役割分担をしながら定期開催を目指していくかが課題と取り組みである。</p>